

1983年度 第2号
1983.7. 発行

寒地地形談話会通信

5月の811/公の報告(1983.5.14 本森大に2)

(発表者)

- ① Hugette Vivian (ケルン-ツル大): ヨーロッパの氷文
気象学について
- ② 田村 光穂 (当大・M2): 日本列島の崖面構造(修論執筆)
- ③ 田淵 洋 (法政大): 東カリフォルニアの地形と気候
→ 3/17 を中心に ←

(要旨)

② 北アメリカ・横一穂高(峰)東斜面を対象地域とし、崖面構造の比較と成り立ち、その地域の気候と地形の安定性に関与する因子(経緯、傾斜、形成岩質、岩層構造等)を検討し、構造状況と地域の安定性に関する一般化を試みる(作成済み)と発表し、修論構想が述べられた。

③ ホルネオ島、カリフォルニアの気候(特に降水量)と農作物の収量とに関する分析が発表された。その結果、近年、乾燥のピークは2月が最も多いことが指摘された。

次いで、早稲作地における地形と農業との関係が述べられた。

田村の地形学報告は、地形と地質との関係、土壌学、気候学と地形学との関係の3つの点に重点が置かれた。

12月2日

① Hugnette Vivian (イリノイ大・アルプス
地理学研究所)

アルプス地域での最近100年間にわたる降雨
と洪水のパターン分析から、アルプスでの降雨
パターンの主要な型を明らかにした。これは
偏西風の影響を強く受けるもの(西岸型)、
地中海の暑い大気の上によるもの(地中海型)、
北海方面からの高度の大きな寒気塊の南下によるもの
(ライン型)、内陸4世の冷たい高気圧の影響に
よるもの(ババルト型)などを分けられる。いずれ
の場合にも、南へ北へ東へ西へ流れる縮く
アルプスの地形と、大きな山地高度が洪水の
パターンを決定する上で重要な役割を演い
ていることが強調された。

7月例会のお知らせ

- 日時; 7月16日(土) 14:00~17:00
- 場所; 都立大学理学部(深沢校舎) A-203 敬里
- 発表者; 長岡信治(都立大・院)

海面変化と気候変動

— 宮崎平野からの発想 —

伊藤真人(筑波大・地球科学系)

サマースクールについて

以上